

質問項目	ねらい	アンケート分析
基本項目	「性別」、「年齢」、「居住年数」、「居住年形態」、「地域」による傾向を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別・・・56.1%が女性、男性が 42.8%</li> <li>・ 年齢・・・70 代が 23.8%、次いで 60 代が 21.2%、40 代・50 代が 14.5%</li> <li>・ 居住年数・・・30 年以上が 61.7%、次いで 21～30 年が 15%</li> <li>・ 居住形態・・・88.1%が戸建て、10%が集合住宅</li> <li>・ 地域・・・東部地区 34.8%、次いで亀岡地区 23.8%、中部地区 23.7%</li> </ul>
質問1:環境の満足度、重要度	前回のアンケート結果との比較による意識の変化と傾向を把握し、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 満足度をみると、「緑の豊かさ」、「空気のきれいさ」が高く、亀岡特有の自然の豊かさが市民の満足度につながっていると言える。一方で、「交通の便利さ」、「ごみのポイ捨て、不法投棄」の不満度は 10 年前よりも悪化している。「交通の便利さ」の不満度は「南部地区」と「西部地区」で高い。「ごみのポイ捨て、不法投棄」は「南部地区」で高い。</li> <li>・ 重要度をみると、「交通の便利さ」、「ごみのポイ捨て、不法投棄」が高く、「南部地区」、「西部地区」で高い。一方で、「空気のきれいさ」、「緑の豊かさ」、「におい」が低い。</li> </ul> <p>➤本市の「交通の便利さ」、「ごみのポイ捨て、不法投棄」に市民は不満を持っており、10 年前と変わっていない。特に「南部地区」、「西部地区」の山間部での不満度が高く、地域的な問題となっていると言える。</p>
質問2:日常での取組	前回のアンケート結果との比較による意識の変化と傾向を把握し、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ポイ捨てをしない、ごみは持ち帰る」、「エコバッグ・マイボトルの利用」、「ごみの分別」の意識が高く、「生ごみの肥料化」は低かった。10 年前のアンケートと比較すると「エコバッグ・マイボトル」の利用変化が大きく、プラスチックごみゼロ宣言による市民意識が変化したと言える。</li> <li>・ 「エコバッグ・マイボトルの利用」、「ごみの分別」をみると、「あてはまる」と答えた割合が 50 代以上で 7 割以上となった。</li> </ul> <p>➤かめおかプラスチックごみゼロ宣言やプラ容器分別回収などの施策により、「ポイ捨てをしない、ごみは持ち帰る」、「エコバッグ・マイボトルの利用」、「ごみの分別」の取組が市民に浸透していると言える。</p> <p>➤「あてはまる」と答えた割合を年齢別でみると、概ね年齢層が高いほど高くなっているため、10 代～30 代の意識を高める施策が必要と言える。</p>
質問3:環境保全活動への参加度	前回のアンケート結果との比較による意識の変化と傾向を把握し、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「リサイクル推進活動」、「清掃美化活動」の割合が高く、それ以外は 1 割程度である。</li> </ul> <p>➤地域における集団回収、自治会による地域の清掃活動の実施により、「リサイクル推進活動」、「清掃美化活動」への参加割合が高い。市として、「自然保護活動」、「緑化推進活動」、「文化財保護活動」の位置付けについて検討が必要と言える。</p>
質問4:使い捨てプラスチックごみに対する取組について	意識や取組状況を把握し、プラスチックごみゼロに向けた施策内容の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「あてはまる」割合をみると、「正しい分別」、「エコバッグの持参とレジ袋を断る」が 7 割以上と高いが、「マイボトルの利用」、「使い捨てプラ製品を断る」は 2 割程度、「散歩中にごみを拾う」では 1 割以下であった。</li> <li>・ 「使い捨てプラ製品を断る」では、20 代未満で「あてはまる」と答えた割合が 1 割以下と低かった。</li> </ul> <p>➤かめおかプラスチックごみゼロ宣言やプラ容器分別回収などの施策に浸透により、「正しい分別」、「エコバッグの持参とレジ袋を断る」の取組割合が高いと言える。</p> <p>➤「散歩中のごみ拾い」、「マイボトルの利用」、「使い捨てプラ製品を断る」が低く、エコウォーカー事業の拡大や、マイボトルの利用・リユース食器の普及啓発が必要と言える。</p> <p>➤「散歩中のごみ拾い」、「マイボトルの利用」、「使い捨てプラ製品を断る」では年齢が低くなるほど、取組割合も低く、教育課程における啓発といった若年層に効果的な施策が必要と言える。</p>

質問5:生活ごみで多いと感じるものについて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多いと感じる」と回答した割合をみると、「プラスチック製容器包装」、「ペットボトル」が多く、全年齢でも2割以上となっている。一方でレジ袋が最も少なかった。</li> <li>・10年前のアンケートでは「ペットボトル」がもっとも多く、次いで「紙類」、「食品トレー」であった。</li> </ul> <p>➤「レジ袋」の排出量では10年前とあまり変化がみられない。一方で「プラスチック製容器包装」はプラ容器分別回収が浸透し、正しい分別により排出量が多くなっていると言える。プラスチックごみゼロのまちをめざすには排出量が多いと感じられる「プラスチック製容器包装」の削減に向けた効果的な施策が必要と言える。</p>
質問項目	ねらい	アンケート分析
質問6:リサイクルに対する関心	意識の変化と傾向を把握し、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別包装の少ないものを選んで購入する」、「リユースショップ、フリマの利用」が少ない。</li> </ul> <p>➤「質問5」においても、プラスチック製容器包装の排出が多い結果を踏まえ、プラスチック製容器包装の削減に向けた有効な施策が必要と言える。</p> <p>➤フライバックなどのアップサイクル製品の普及拡大を促進することで、リユース意識の高揚を図る必要があると言える。</p>
質問7:再エネや省エネの取組	関心や導入傾向を把握し、次期計画における再生可能エネルギーの普及促進の資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「LEDなどの照明」は約6割以上が導入済みであり、次いで「省エネ家電製品」が約4割となっている。「戸建て」、「集合住宅」ともに同じ傾向となっている。「省エネ家電製品」や「LEDなどの照明」は「関心がある」人も含めると、9割を超える人が興味を持っておられる。</li> <li>・「太陽発電」、「再エネを供給する電力会社への切り替え」の導入率は1割に満たず、導入予定もなく、関心もない結果となっている。</li> </ul> <p>➤省エネルギーに対する取組はみられるが、再生可能エネルギーに関する取組は少ない。「脱炭素のまちづくりを進めるには、再生可能エネルギーの普及を促進する施策が必要と言える。</p>
質問8:環境用語の認知度	認知度と傾向を把握して、環境教育や普及啓発のための資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「海洋プラスチックごみ問題」の認知度が約9割以上と最も高く、次いで「パリ協定」が約8割以上となっている。一方で、「SDGs」が約4割と最も低い。</li> <li>・本市の環境施策では、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」、「アユモドキ」の認知度が約9割以上となっている。一方で、「亀岡ふるさとエナジー株」、「SDGs未来都市」は約3割と低い「亀岡ふるさとエナジー株」、「SDGs未来都市」ともに全年齢で認知度が低い。「亀岡ふるさとエナジー株」では特に10代～30代で低くなっている。</li> </ul> <p>➤環境教育の実施、市イベントでの広報等、全年齢の認知度を高める有効な施策が必要と言える。</p>
質問9:情報の取得媒体や手法	環境情報の提供を行う最適な手法を検討するための資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常活用している媒体は、「市の広報紙」が6割以上、次いで「テレビ・ラジオ」が5割以上であった。</li> <li>・今後、活用を期待する媒体では、「SNS」、「市以外のホームページ」が5割以上であった。</li> </ul> <p>➤本市のSNS(Facebook等)による情報発信が期待されていることから、市広報紙とともにSNSでの情報発信の強化が必要と言える。</p>
質問10:亀岡市の環境の取組の満足度	各項目に対する重要度を把握し、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最も満足度が高かったのは「適正な生活排水処理」で、次いで「公害のない快適な生活環境づくり」であった。</li> <li>・最も不満度が高かったのは、「地域にやさしい交通対策の推進」で、次いで「環境美化」であった。</li> <li>・「地球環境温暖化対策」、「市民・事業者との連携協力」では、「取組を知らない」と答えた割合が約2割となっている。</li> <li>・全体的に「どちらともいえない」との回答が約4割となっている。</li> </ul> <p>➤現計画に基づく各施策の認知度が低いためか、「どちらともいえない」との中間的な回答が目立っていると言える。特に「資源循環・廃棄物対策」、「地球環境温暖化対策」、「市民・事業者との連携協力」の満足度が低い。次期計画で、「プラごみゼロ」、「脱炭素」をパートナーシップで推進するためには、計画の認知度を高めるとともに、「資源循環・廃棄物対策」、「地球環境温暖化対策」、「市民・事業者との連携協力」に関する施策のボトムアップが必要と言える。</p>

質問11:行政が取り組むべき環境施策について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・最も重要度が高かったのは、「不法投棄やポイ捨て対策」が6割以上で、次いで、「ごみの減量、分別及びリサイクルの推進」、「気候変動による風水害や農作物の被害対策」であった。</li> <li>・「重要」、「やや重要」と答えた割合をみると、全ての項目において6割以上であった。</li> </ul> <p>➤行政に求めている施策全てにおいて重要度が高くなっているが、その中でも特に重要度の高い不法投棄、ポイ捨て、ごみの分別減量、気候変動に関する施策の推進が必要と言える。</p>
質問12:目指すべき環境像	将来の亀岡の環境のイメージを把握し、次期計画の環境像の検討資料とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境像として「あてはまる」と回答した割合をみると、「きれいな水」、「すがすがしい空気」、「緑豊かな環境」、「人と自然との共生」、「美しいまちなみ・景観」が4割以上であった。</li> </ul> <p>➤本市の豊かな自然環境をいかした環境像を望んでいると言える。</p>
質問項目	ねらい	アンケート分析
質問13:自由記載	本市の環境に関する意見について、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	集計中

質問項目	ねらい	アンケート分析
基本項目	「従業員数」、「業種」、「事業所形態」、「地域」による傾向を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員数…10人未満が65.2%、次いで10～19人</li> <li>・業種…製造業が6社、次いで建設業、卸売・小売業、医療・福祉が4社</li> <li>・事業所形態…工場・作業所が30.4%、次いで事務所・営業所が26.1%</li> <li>・地域…亀岡地区が30.4%、次いで西部地区21.7%</li> </ul>
質問1: 亀岡市内の環境についての関心度	前回のアンケート結果との比較による意識の変化と傾向を把握し、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごみ処理の問題」、「緑地、水辺などの自然景観の保全」、「まちなみや景観」の関心度が8割以上と高かった。一方で、大気汚染問題の関心度のみ4割程度となった。</li> </ul> <p>➤<u>企業としても本市の環境への関心度が高く、今後は事業所との具体的な連携協力に関する施策の検討が必要と言える。</u></p>
質問2: 環境への配慮について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「企業の社会的責任」、「企業、商品のイメージアップ」との回答が多かった。</li> </ul> <p>➤<u>世界に誇れる環境先進都市として「環境」をブランド化することで、既存事業所のイメージアップにつながるるとともに、環境に配慮した企業の誘致にも繋がる</u>と言える。</p>
質問3: 公害防止の取組について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答割合で10人未満の事業所が半数以上であったことから、「関係しない」との回答が各項目で4割～6割であった。</li> </ul>
質問4: 環境保全活動の取組について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「冷暖房の適正管理」、「省エネ機器への切り替え」、「ごみの把握・減量」、「アイドリングストップ、エコドライブ」、「包装の簡素化」での取組が多かった。</li> <li>・「取り組んだことがない」との回答が各項目で目立った。</li> </ul> <p>➤<u>省エネやごみの減量に関する取組はみられるが、再生可能エネルギーの利活用は約1割と低く、「脱炭素のまちづくりを進めるために、亀岡ふるさとエナジー㈱と連携した再エネ普及に繋がる施策が必要</u>と言える。</p>
質問5: プラスチックごみの取組について	意識や取組状況を把握し、プラスチックごみゼロに向けた施策内容の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組済として最も高かったのは、「プラスチックごみの分別・適正処理」が9割以上で、次いで「会議などでのペットボトルの使用削減」が5割以上であった。</li> </ul> <p>➤<u>「取り組む予定はない」という回答も目立っているため、プラスチックごみゼロのまちを実現するために、更なる事業所への啓発が必要</u>と言える。</p>
質問6: 新エネルギーの利用状況について	再生可能エネルギー促進に向けた施策内容の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答割合で10人未満の事業所が半数以上であったことから、「導入予定はない」との回答がほとんどであった。</li> </ul>
質問7: 地域などで実施されている環境保全活動への参加について	事業所の環境保全活動の促進のための資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事業所の緑化活動」最も多く、次いで「事業所周辺の清掃活動」、「地域の清掃活動や美化活動への参加・協力」が同率であった。一方で、「環境保全団体等への支援」と「環境問題に関する講演会等への参加」については、6割以上が参加(実施)したことがないとの回答であった。</li> </ul> <p>➤<u>事業所に関する環境保全活動の方向性について検討する必要がある</u>と言える。</p>
質問8: 情報の取得媒体や手法	環境情報の提供を行う最適な手法を検討するための参考資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常活用している媒体は、「亀岡市、商工会議所の広報紙」が多く、次いで「新聞・専門書・専門雑誌」であった。</li> <li>・今後、活用を期待する媒体では、「亀岡市、商工会議所以外のホームページ」が多く、次いで「亀岡市、商工会議所のイベント」であった。</li> <li>・各項目で半数が無回答であった。</li> </ul>
質問9: 環境用語の認知度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知っている」は2割程度であり、「知らない」が半数以上であった。</li> </ul>

質問10:環境施策の認知度	認知度と傾向を把握して、普及啓発のための資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知っている」、「聞いたことがある」をみると、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」が100%であった。次いで「アユモドキの保護及び生息環境の保全」が9割以上であった。一方で、「亀岡ふるさとエナジー株」が6割程度、「SDGs未来都市」が5割程度であった。</li> <li>➤<u>亀岡ふるさとエナジー株を核として、脱炭素のまちづくりを進めるためには、亀岡ふるさとエナジー株の認知度を高める有効な施策が必要不可欠と言える。</u></li> </ul>
質問項目	ねらい	アンケート分析
質問11:行政が取り組むべき環境施策について	各項目に対する重要度を把握し、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最も重要度が高かったのは、「不法投棄やポイ捨て対策」が100%であった。他の項目についても重要度が6割以上と高かった。</li> <li>➤<u>市民アンケート結果と同じく、「不法投棄やポイ捨て対策」の重要度が最も高かった。市民・事業所の重要度が共通する施策については、市民・事業所・行政のパートナーシップにより取り組める可能性があると言える。</u></li> </ul>
質問12:自由記載	本市の環境に関する意見について、次期計画の「基本理念」や「施策の方向性」の検討資料とする。	集計中